

文化ホール及び公民館 内部評価結果 (施設所管課による評価)

【評価対象施設】文化ホール・公民館

【指定管理者名】株式会社 アステム

【評価対象年度】令和2年度

【施設所管課名】産業・文化部 生涯学習課 (旧 生涯学習部 生涯学習課)

業務内容について評価

総合文化センターは、文化ホールと公民館との複合施設であり、その役割は、市民のニーズを踏まえながら、質の高い舞台芸術を提供することと、市民自身の文化・芸術活動を育む環境を提供することにあります。

令和2年度は、芸術文化の向上、生涯学習の振興や市民の自主的な学習、活動のきっかけとなる事業の実施は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に対応した事業を令和元年度中に企画・準備した結果、51件と前年度(49件)に比べて増加しました。コロナ禍において、多くの集客を目的とするのではなく、新しい生活様式に対応し、創意工夫を凝らした事業を実施しました。具体的には、普段、見ることができない舞台現場にスポットを当てた「サーティホール動画配信～バックステージツアー」、在宅でも楽しめる「自然かんさつピクニック」、コロナ禍で困ったことを相談する先として「文化活動相談事業」、文化はコロナに負けないことを力強く示す「地元の文化活動紹介事業」などを実施し、文化活動を支援しながら、市民の芸術文化の振興と教養を高め、市民生活の向上、精神的な安らぎに資することができました。

施設の管理運営について、老朽化しつつある施設・設備・備品に対し、不良箇所を保守・点検し、修繕の優先順位をつけながら、利用に支障がないよう行われていると認められます。また、臨時休館が続く中、舞台技術員は舞台や道具類などを修繕し、事務職員は各部屋のカーテンや座布団などを補修し、施設職員自らが率先して維持業務に邁進していました。

新型コロナウイルス感染症の拡大予防・安全対策については、令和2年1月下旬より実施しており、政府等が発信する最新情報を反映させたマニュアル等の改訂やセンター内に掲示した啓発文書等の更新を重ね、常に利用者の安全対策を講じている体制を現認でき、施設管理者としての技量を確認できました。

利用者満足度について評価

令和2年度末に実施した利用者アンケートにおいては、スタッフ・説明の対応、施設全般について、「満足」「以前より良い」の回答が約75%で、前年度(約60%)より、評価が上がっており、これは新型コロナウイルス感染拡大防止対策が高く評価されていると考えられ、利用者本位の業務運営がなされていることが確認できました。施設・設備の使いやすさ、施設の清掃・美観、手続きや申請方法につい

て、「満足」が前年度とほぼ同じであるため、利用者視点での改善を期待します。

開館から34年が経過し、施設の使いやすさや美観などについてもニーズ対応が厳しい状況となりますが、今後も豊富な経験とノウハウの発揮に期待します。

収支状況について評価

令和2年度単年度評価として、収支状況は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う利用者数の減少に伴い、補填料の支払及び指定管理者委託料の見直しを実施しましたが、最終的には、6,297千円の赤字となりました。次年度以降について、新型コロナウイルス感染症の拡大予防・安全対策を図り、新しい生活様式等を取り入れた適正な施設経営・事業を展開し、利用者の満足度を高めるよう努めてください。

総合評価

文化ホールの利用者数は、緊急事態宣言を受けた臨時閉館、新型コロナウイルス感染拡大防止のための利用制限を受け、前年度に比べて、166,254人減少し、公民館の利用者数は、前年度(35,399人)に比べて、18,576人減少し、全体として、184,830人が減少しました。

文化ホールの利用者数の動向及び事業については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、「大東市民文化祭」、「ヤングアメリカンズツアー」、「吹奏楽コンクール」、「大東第九コンサート」が中止となり、利用者数は前年度より80%減となり、大幅に減少しました。三密対策・新しい生活様式などコロナ禍に対応した事業として、「サーティホール動画配信～バックステージツアー」、「自然かんさつピクニック」、「文化活動相談事業」、「地元の文化活動紹介事業」、新たなコンセプトを取り入れた事業として、「オカリナ講座」、「姿勢づくりトレーニング」を開催しました。また、コロナ禍で事業実施が低迷している中、防災意識を高めるため、「サーティ de 防災展示」を開催したことにより、新聞社に取上げられ、大東市及びサーティホールの知名度向上に繋がったと評価しています。

公民館の利用者数の動向及び事業について、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、公民館利用者の中には、高齢者や持病のある方がおられ、その方が感染した場合、重症化リスクが高いことから、より慎重に企画を検討した結果、「公民館ふれあいまつり」、「古典はあらゆる知恵の知恵袋～田辺聖子さんが描く光源氏～」は中止となり、利用者数は前年度より52%減となり、大幅に減少しましたが、文化ホールや歴史民俗資料館等の他施設と協力しながら、「『おうち時間の車窓』から鉄道模型走行会」、「野崎城跡の春を探そう！自然かんさつピクニック」などオンライン動画配信を行い、コロナ禍に応じた事業を展開できました。また、従来から座学で実施している「おうち de Art&Science 実験教室」もオンライン動画配信で開催ができました。閉館が継続される場合を想定し、来館しなくても、従来行ってきた事業を在宅でも参加ができるようオンライン講座等を短時間で構築し、絶え間なく社会教育に寄与したと評価しています。

文化ホール事業・公民館事業ともに、適宜、国や大阪府等の通知や業種別ガイドライン等に沿った安全対策を図り、利用者の安全・安心を最優先とした新規事業を開拓している状況についても評価しています。